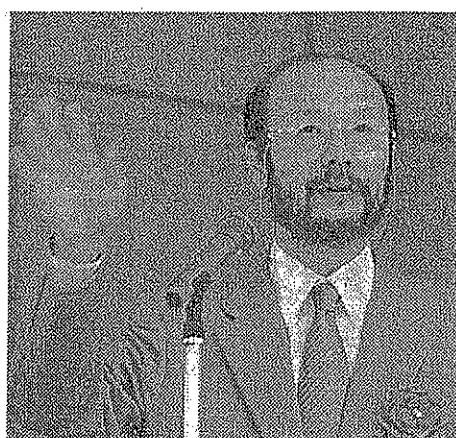


【福山】モノづくり推進会議は21日、広島県福山市で「地域活性化リレーシンポジウム—in FU KUYAMA」を開いた。昔の遊びの技を子どもたちが競い合う「遊びのオリンピック2008 WAZA-ONE GP」との併催で、国立科学博物館理工学研究部の鈴木一義研究主幹と、WAZA-ONE GP実行委員会委員長である田拓夫キャスト社長の講演などを実施した。

(一面参照)

モノづくり推進会議

広島・福山でシンポ



講演する鈴木国立科学博物館研究主幹

日本高度部材

世界シェアト
戸田氏は「遊びと技と工

夫がものづくりの原点」を
て「日本の部材

が製品で4割以上使われたら『ジャパンインサイド』として知らせる

このほか、大学生が北海道・東北地区の中小企業の現場を訪問する中で、彼らが変化していく姿を紹介したドキュメンタリー映画を上映した。

日本製部材の優位性強調

地域活性化リレーシンポジウムは、地域からモノづくりの重要性を情報発信する活動の一環。

鈴木氏は「日本のモノづくりの風土・文化」を演題に、将来日本のモノづくりその優位性を強調した。

鈴木氏は「日本のモノづくりのオリンピックについて語る。外での遊びが廃れて、子どもの工夫する力や

地域活性化リレーシンポジウムは、地域からモノづくりの重要性を情報発信する活動の一環。